

ワークショップ9	
タイトル	EBN( Evidence Based Nutrition care)のススメ - 症例を通じて活きた栄養療法を修得する -
日時	6月13日(土) 10:45-12:15
企画責任者	小坂 鎮太郎 (公募企画)
定員	30名
開催の目的・概要	
<p><b>【開催の目的】</b>                      なぜいま栄養療法か。                      医学の進歩は著しく、疾患ごとの治療も様々な進歩を遂げている。そのなかで治療における「食」の重要性は古より変わらない。子供から高齢者を対象とし、在宅から集中治療室まで幅広く活動の場をもつプライマリケアに携わる医師やコメディカルが栄養療法について学ぶことは日常診療において有用である。                      栄養に関するガイドラインは日本(JSPEN)、米国(ASPEN)、欧州(ESPEN)とあり年々エビデンスが蓄積して進歩している。一方でNST(Nutrition Support Team)を運営するのに必要な講習会の多くが、その進歩に追いつけず資料のエビデンスが2000年以前のもので更新の遅れが散見される。                      このワークショップを通じて、栄養療法についての基礎的な考え方と最新のエビデンスを学び、自施設の外来や病棟で「効果的な活きた栄養療法」を実現するきっかけを作ることが目標である。</p> <p><b>【概要】</b>                      まず始めに、栄養療法の意義について、日本の現状と改善により期待される効果について講義形式で説明する。具体的には、様々な慢性疾患(慢性閉塞性肺疾患や心不全など)の再入院予防、院内感染、高齢者のFrailやSarcopeniaに対する予防における栄養療法の効果をエビデンスを交えて示す。                      次に、栄養療法を考える際の5原則を示し、症例を提示してNSTのシミュレーションを見本として示す。                      その後、複合的な問題を抱える高齢者とアルコール依存症の患者という現場でよく遭遇する2症例を通じて、参加者およびファシリテーターで模擬NSTを形成して議論・発表を行なう。発表に対して適宜フィードバックをしながら解説を行う。</p> <p><b>【キーワード】</b> 栄養療法, NST, PEM(Protein-energy malnutrition)、エネルギー借金(Energy debt), Permissive underfeeding, Frail, Sarcopenia, アルコール依存症, リフィーディング症候群</p>	